

本園の地域連携・地域交流

学校法人 ひまわり幼稚園 幼稚園型 認定こども園

都留市で営む果樹農園との交流～桃の花から収穫・その後の定点観察を通して～

1. 目的と経緯

- ・自分たちが住む地域の方々と交流することで知識や見方を広げると共に色々な職業を知る。
- ・果樹園を定期的に観察していくことで、自然の移り変わりや果実の変化に気づく。
- ・地域の物産品（桃）の着花、摘果、収穫、出荷、販売までの過程を知る。



2. 内容

温暖化により都留市でも、桃やブドウの栽培が増えてきている。

3月中旬頃、果樹園を営んでいる保護者より「桃のお花見はどうか」とお誘いを頂いた。

桜のお花見はよくあるが、都留市の桃のお花見は子どもたちにとっても初めての経験。

お花見をしながら桃の花をよく観察してみると、花の中に「桃の果実の赤ちゃん」を発見。

その興味を捉え、定点観察していくことで“桃の花から実”への一連の成長の流れを見て感じる事ができるとよいと計画を立てた。

4月…鮮やかなピンク色の花の下を散歩。下から見上げると空に伸びていく桃の木の枝や花がきれいだった。花の匂いを嗅いだり観察したり楽しんだ。

果樹農家さんより、桃の木に触ったり、折ったりすると美味しい桃ができないことを教えて頂いた。

5月…いつの間にか花が無くなり木にはぎっしりと緑の葉っぱが。ピンクから緑へ見た目の様子の変化に不思議な気持ちがあった。葉っぱだけに見える桃の木に「小さな桃の赤ちゃん」があることを教えて頂いた。

6月…「摘果」…いつの間にか大きくなった桃、まだ緑で細長い。

そんな桃が地面一杯に落ちている、1本の枝に1つか2つの桃を大切に育てるために他の桃は落としてしまうことを知る。

7月…「袋かけ」…大きくなった桃は傷がつかないように大切に袋をかけてあげることを教えて頂いた。

8月…種類によって収穫時期が違う。美味しくなった桃から順次出荷。

★赤ちゃんから見てきた桃を「道の駅つる」まで買いに行こう～美味しく食べよう～

★少しだけ傷がついた桃、形の悪い桃は売れない…もったいないね

★アウトレットの桃で作ったコンポート。冬になっても食べられるね⇒クリスマスケーキ作り



2. 成果と課題

日頃、スーパーで当たり前前に並び購入している桃が、お店に並ぶまでには果樹園の方々が愛情を注いで育てる一連の過程があることを目の当たりにした子どもたち。そこには多くの気付きがあり同時に花から実へと変化していく不思議さも実感した。そして、果樹園というぶどうや桃を育てる仕事、道の駅で地域の物産品を販売している方々など5歳児のイメージの中にはなかった職業を知る良い機会となり、何よりも「都留市産桃」に出会えたことは大きな収穫となった。